

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 21 年 11 月 19 日 (2009.11.19)

【公表番号】特表 2008-539306 (P2008-539306A)

【公表日】平成 20 年 11 月 13 日 (2008.11.13)

【年通号数】公開・登録公報 2008-045

【出願番号】特願 2008-508934 (P2008-508934)

【国際特許分類】

C 0 8 J 3/22 (2006.01)

C 0 8 L 23/10 (2006.01)

【F I】

C 0 8 J 3/22 C E S

C 0 8 L 23/10

【手続補正書】

【提出日】平成 21 年 10 月 1 日 (2009.10.1)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

物品を作る方法であって：

0.5 から 70 J / g の間の融解熱を有し、0 より高く 100 より低い融点を有する半非晶質重合体を、可塑剤、および任意選択として 1 つ以上の添加剤と組み合わせて重合体濃縮物を製造し、この製造過程では、前記重合体濃縮物は、2.9 mm の下端開口を有するロートを通して、49 で 7 日間格納された後に ASTM D 1895 の B 法を用いた測定で 300 秒またはそれ以下で注下することができる注下可能な自由流動粒子として成形されており、この製造過程に続いて前記重合体濃縮物を 1 つ以上の重合体と組み合わせて物品前駆体を製造する、工程と；

前記可塑剤の引火点は 200 以上、流動点は -20 以下、100 における動粘度は 4 cSt 以上 350 cSt 以下で、少なくとも部分的に前記物品前駆体から前記物品を成形する工程と；

を含む方法。

【請求項 2】

前記重合体濃縮物は、前記重合体濃縮物の一部を 25 において吸収媒表面上で 24 時間熟成させた後、前記吸収媒表面上で、視覚によって検出可能な前記可塑剤の損失がないことによって実証されるように、目に見える相分離を示さない、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記半非晶質重合体は、少なくとも 50 重量 % のプロピレンを含み、75 % 以上の mm³ 連タクチシチー指数を有し、90 より低い融点を有し、可塑剤は -25 以下の流動点を有する、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 4】

前記重合体濃縮物は、0.1 から 95 wt % の前記半非晶質重合体を含む、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 5】

前記重合体濃縮物は、前記重合体濃縮物の全重量を基準として、1 から 50 重量 % の半結晶性重合体をさらに含む、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 6】

前記可塑剤は、 C_{20} から C_{1500} のパラフィンを含むポリアルファオレフィンオリゴマーを含む、請求項 1 の任意の 1 項に記載の方法。

【請求項 7】

前記可塑剤は、100 において 5 cSt 以上 350 cSt 以下 の動粘度を有する、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 8】

前記濃縮物と組み合わせ前記重合体は、ポリプロピレン、ポリエチレンおよびそれらの混合物からなる前記群から選択される、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 9】

前記物品を作るために使用される 1 または複数の重合体が、前記濃縮物を作るために使用される前記半非晶質重合体と同じものではない、請求項 1 から 8 の任意の 1 項に記載の方法。

【請求項 10】

前記重合体濃縮物は、29 mm の下端開口を有するロートを通して、ASTM D1895 の B 法を用いた測定で 100 秒またはそれより小さい時間内に注下することができる複数の注下可能な自由流動粒子にペレット化される、請求項 1 から 9 の任意の 1 項に記載の方法。

【請求項 11】

前記可塑剤は、100 において 10 cSt 以上 350 cSt 以下 の動粘度を有する、請求項 1 から 9 の任意の 1 項に記載の方法。

【請求項 12】

前記可塑剤は、220 以上の引火点を有する、請求項 1 から 9 の任意の 1 項に記載の方法。

【請求項 13】

前記可塑剤は、0.86 以下の比重を有する、請求項 1 から 9 の任意の 1 項に記載の方法。

【請求項 14】

前記可塑剤は、-40 以下の流動点を有する、請求項 1 から 9 の任意の 1 項に記載の方法。

【請求項 15】

前記可塑剤は、220 以上の引火点、35 cSt 以上 350 cSt 以下 の 100 における動粘度、0.86 以下の比重および -30 以下の流動点を有する、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 16】

前記半非晶質重合体を、100 以上の融点を有する半結晶性重合体、および任意選択として 1 つ以上の添加物と組み合わせてキャリア組成物を製造し、次に、前記キャリア組成物を前記可塑剤と組み合わせる前記重合体濃縮物を製造し、次に、前記濃縮物を複数の自由流動粒子に成形し、次に、前記自由流動粒子を前記 1 つ以上の重合体と組み合わせる前記物品前駆体を成形する、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 17】

前記半結晶性重合体は、インパクト共重合体である、請求項 16 に記載の方法。

【請求項 18】

前記濃縮物を複数の自由流動粒子に成形し、次に、前記複数の自由流動粒子を 1 つ以上の重合体と組み合わせ、次に、前記組み合わせ物を不織布に成形する、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 19】

前記半非晶質重合体は、97 から 75 重量%のプロピレン、3 から 25 wt%のエチレンを含み、50 J/g 以下の融解熱と 80%以上の mm³ 連タクチシチー指数とを有し、前記可塑剤は、1) 220 以上の引火点と、2) 35 cSt 以上 350 cSt 以下 の 1

0 0 における動粘度または - 3 0 以下の流動点とを有し、可塑剤が少なくとも 1 0 w t % 存在する、請求項 1 8 に記載の方法。

【請求項 2 0】

前記半非晶質重合体は 6 0 % から 8 5 % の組成分布幅指数を有するエチレン共重合体を含む、請求項 1、2、及び 4 から 1 8 に記載の方法。